

秋田県埋蔵文化財センター年報

31

平成24年度

2013・3

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩佩」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

昨年(2019)の3月6日、センター内で創立30周年記念式を行うとともに、草創期を知る富樫泰時氏から講話いただき、創立の原点を確かめ、次の10年へ再出発しました。12月には本センターの英語表記を改め、Akita Archaeological Center(略称AAC)といたしました。職員一同、一層時代に即した埋蔵文化財の調査研究と保護活用をはかる所存です。

近年写真画像のデジタル化が急速に進み、銀塩写真が急速に縮減の傾向にあります。デジタル化を本格的に進める状況になりました。今年度は埋蔵文化財のデジタル化に適した記録方法を模索するとともに、デジタルデータを活かす方向性をつけた一年となりました。

昨年度のデジタルカメラ使用の情報収集に引き続き、今年度一眼レフデジタルカメラ導入研修を行い、発掘現場での使用に向けた準備をし、データの保存・保管に向けて検討に入っています。また、秋田大学附属図書館にデジタルデータを提供し、「秋田県遺跡資料リポジトリ」という名で、県作成の発掘調査報告書をインターネットを通じて利用できる道筋をつけました。秋田県立図書館のデジタルアーカイブにも参加し、埋蔵文化財関係のデジタルデータが間もなく閲覧可能となります。インターネットを通じて広く世界の人々にデータを提供できる環境の整備を目指し、今後さらにこの方面の拡充に踏み出していかねばと考えております。

今年度は出張展示「黎明期の秋田考古学」、企画展「一千二百年前の八郎湖岸開拓」はじめ、発掘見学会を行った船戸遺跡(大仙市)、ハケノ下Ⅱ遺跡、藤株遺跡(北秋田市)でも参加者・見学者数が大幅に増加傾向にあります。これは職員の普及活動の結果でもあります。考古学に夢やロマンがあり、我々が紹介する世界への期待のあらわれと思います。それに応えるため、地道で目立たない基礎研究を継続し、真の専門家たりうる日々修練の必要性を感じます。今年縄文時代後期の土器の基準資料を集成しましたが、これなどはその有効な修練の場と思われ、継続したいと考えています。

今後とも一層の御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 高 橋 務

目 次

序

目次

I	沿革	1
II	組織・施設	1
1	組織	1
2	施設の概要	1
III	秋田県埋蔵文化財センター平成24年度の歩み	2
IV	事業の概要	3
1	発掘調査	3
2	確認調査	3
3	埋蔵文化財発掘調査	4
	(1)平成24年度秋田県内発掘調査遺跡(位置図・一覧表)	4
	(2)発掘調査概要	6
	藤株遺跡	6
	ハケノ下Ⅱ遺跡	8
	船戸遺跡	10
	弘田柵跡(第145次調査)	12
4	刊行物一覧	14
5	活用・普及事業	17
	(1)秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	17
	(2)遺跡見学会	18
	(3)地域報告会	18
	(4)学校(教育)サポート	19
	①セカンドスクール	19
	②ボランティア・職場体験(インターンシップ)	19
	③出前授業	20
	(5)主催事業	21
	①企画展	21
	②ふるさと考古学セミナー	22
	③古代発見!バスツアー	23
	④出張展示	25
	(6)共催・機関連携等による普及事業	25
	①農業科学館まつり	25
	②土器に生ける秋の草花展	26
	③あきた県庁出前講座	26
	④発掘!考古ゼミ	26
	⑤兵庫県立考古博物館「第5回考古博古代体験・秋まつり」	27
	(7)その他	28
	①所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	28
	②センターの開放と展示	28
	③図書整理・図書一般公開	28
	(8)研究論文・講演等	29
6	運営協議会	29
V	平成24年度研修事業	31
1	研修受け入れ	31
2	職員研修	31
3	一眼レフデジタルカメラ導入に関する研修	31
	(1)現状と課題	31
	(2)関連研修	32
VI	職員名簿	33

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班、調査班、資料管理活用班、中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行

II 組織・施設

1 組織



2 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20		
TEL	0187-69-3331	FAX	0187-69-3330
敷地面積			6,962.000㎡
本所建物	鉄筋コンクリート 2 階建		1,527.304㎡
第 1 収蔵庫	鉄骨造平屋建		360.000㎡
第 2 収蔵庫	鉄骨造平屋建		297.680㎡
電気・ポンプ室	平屋建		59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1		
	TEL 018-893-3901	FAX 018-893-3899	
敷地面積			1,518.000㎡
建物	鉄筋コンクリート平屋建		1,518.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比喩字餅ヶ沢200		
敷地面積			55,521.000㎡
建物	鉄筋コンクリート3階建		7,524.360㎡

Ⅲ 秋田県埋蔵文化財センター平成24年度の歩み

【平成24年】

- 4月2日 平成24年度秋田県埋蔵文化財センター新任式
- 4月3日 第1回全体職員会
- 4月5日 新任研修(～4/12)
- 5月14日 船戸遺跡発掘調査開始(～8/10)
 - 24日 十二袋遺跡確認調査開始(～5/30)
 - 30日 大川端道ノ上遺跡確認調査開始(～6/8)、十二袋遺跡確認調査終了
- 6月4日 ハケノ下Ⅱ遺跡発掘調査開始(～10/9)、藤株遺跡(B区)発掘調査開始(～10/30)
 - 8日 大川端道ノ上遺跡確認調査終了
 - 18日 藤株遺跡(A区)発掘調査開始(～10/17)
 - 19日 第1回古代発見!バスツアー「八郎潟周辺の遺跡探訪コース」
秋田市内発 → 浦城跡 → 石崎遺跡・中谷地遺跡 → 文化の館 → 男鹿市歴史資料収蔵庫(小谷地遺跡出土品見学) → 小谷地遺跡 → 秋田市内着
 - 21日 第2回古代発見!バスツアー「八郎潟周辺の遺跡探訪コース」
 - 23日 第1回ふるさと考古学セミナー「日本海沿岸古代の道」(会場:仁賀保勤労青少年ホーム)
 - 25日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会
 - 26日 第3回古代発見!バスツアー「八郎潟周辺の遺跡探訪コース」
- 7月3日 出張展示「黎明期の秋田考古学」(～8/17、会場:秋田県立図書館)
 - 5日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会(～7/6、会場:三重県伊勢市)
 - 22日 第2回ふるさと考古学セミナー「黎明期の秋田考古学」(会場:秋田県立図書館)
 - 27日 出張展示ギャラリートーク(会場:秋田県立図書館)
 - 28日 船戸遺跡見学会
- 8月10日 船戸遺跡発掘調査終了
 - 11日 出張展示ギャラリートーク(会場:秋田県立図書館)
 - 20日 弘田柵跡第145次調査開始(～11/6)
 - 24日 第1回埋蔵文化財センター職員技術研修会(会場:藤株遺跡)
- 9月16日 ハケノ下Ⅱ遺跡見学会
 - 23日 企画展 講演会+座談会「小谷地遺跡の灌漑堰」(会場:大仙市仙北ふれあい文化センター)
- 9月29日 藤株遺跡見学会
- 10月2日 第4回古代発見!バスツアー「県北の縄文遺跡探訪コース」
秋田市内発 → 北秋田市藤株遺跡 → 鹿角市大湯環状列石 → 秋田市内着
 - 4日 第5回古代発見!バスツアー「県北の縄文遺跡探訪コース」
 - 9日 ハケノ下Ⅱ遺跡発掘調査終了
 - 11日 第6回古代発見!バスツアー「県北の縄文遺跡探訪コース」
 - 13日 第3回ふるさと考古学セミナー「土偶は語る」(会場:北秋田市交流センター)

- 17日 藤株遺跡(A区)発掘調査終了
- 22日 峰吉川中村遺跡確認調査開始(～11/2)
- 30日 藤株遺跡(B区)発掘調査終了
- 11月2日 峰吉川中村遺跡確認調査終了
兵庫県立考古博物館「第5回考古博古代体験・秋まつり」(～11/3、会場：兵庫県播磨町)
- 6日 弘田柵跡第145次調査終了
- 8日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会(会場：北上市)
- 12日 奈良研修「土器・陶磁器調査課程」(～11/16、会場：奈良文化財研究所)
- 29日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議
(～11/30、会場：宮城県多賀城市)
- 12月5日 研修報告会(会場：埋蔵文化財センター中央調査班)
- 18日 秋田県立大曲技術専門校制作看板設置

【平成25年】

- 1月24日 第2回埋蔵文化財センター職員技術研修会(会場：埋蔵文化財センター中央調査班)
- 2月9日 地域報告会〔船戸遺跡〕(会場：大仙市神清水コミュニティセンター)
- 18日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会
- 24日 平成24年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(会場：秋田県生涯学習センター)
- 3月17日 地域報告会〔ハケノ下遺跡・ハケノ下Ⅱ遺跡〕(会場：北秋田市堂ヶ岱自治会館)
- 29日 離任式

Ⅳ 事業の概要

1 発掘調査

平成24年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

- 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業：藤株遺跡
- 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業：ハケノ下Ⅱ遺跡
- 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業：船戸遺跡

秋田県農林水産部関係

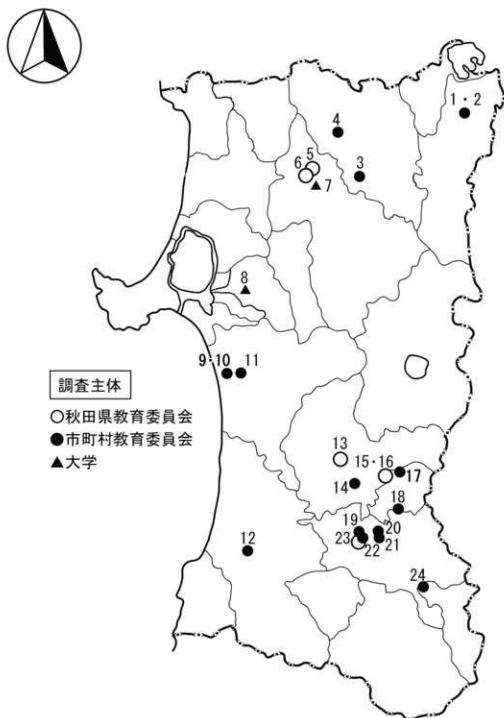
- ほ場整備事業(本堂城回地区)：弘田柵跡(第145次調査)

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	雄物川上流西板戸地区堤防整備事業	十二袋遺跡 (大仙市)	5月24日～5月30日	佐々木商人 高橋 和成
2	雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業	大川端道ノ上遺跡 (大仙市)	5月30日～6月8日	佐々木商人 高橋 和成
3	雄物川上流河川改修(中村・芦沢地区)事業	峰吉川中村遺跡 (大仙市)	10月22日～11月2日	水品 仁志 村上 義直 伊豆 俊祐

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成24年度秋田県内発掘調査遺跡



平成24年度県内発掘調査遺跡位置図

平成24年度県内発掘調査遺跡一覧表

No	遺 跡 名	所 在 地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	黒森山麓堅穴群 遺跡	鹿角市十和田大湯字上内野	11/16～11/30	8	鹿 角 市 教育委員会	学術調査	縄文：集落跡
2	小黒森遺跡	鹿角市十和田大湯字上内野	11/7～12/4	20	鹿 角 市 教育委員会	学術調査	縄文：集落跡
3	鎌谷地沢遺跡	大館市比内町八木橋字鎌谷地沢	4/25～8/8	3,220	大 館 市 教育委員会	遺跡処理施設建設	縄文：狩猟場
4	中茂屋遺跡	大館市山田字茂屋屋敷	9/20～11/8	95	大 館 市 教育委員会	下水道工事	縄文：集落跡
5	藤株遺跡	北秋田市脇神字高森堂ノ上	6/4～10/30	8,700	秋 田 県 教育委員会	一般国道7号豊果大 館道路建設事業	縄文：集落跡
6	ハケノ下Ⅱ遺跡	北秋田市脇神字ハケノ下	6/4～10/9	4,200	秋 田 県 教育委員会	一般国道7号豊果大 館道路建設事業	縄文・平安： 集落跡
7	石倉岱遺跡	北秋田市七日市石倉岱	8/19～8/27	39	國學院大学	学術調査	縄文・平安： 集落跡
8	中山遺跡	五城目町高崎字中泉田	5/1～10/3	40	弘 前 大 学	学術調査	縄文：集落跡
9	史跡秋田城跡 (第100次)	秋田市寺内大畑	4/24～8/23	463	秋 田 市 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 城柵官衙跡
10	史跡秋田城跡 (第101次)	秋田市寺内大小路	9/11～11/9	172	秋 田 市 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 城柵官衙跡
11	名勝旧秋田藩 主殿竹式別邸 (如所亭)庭園	秋田市旭田南町	4/24～9/28	761	秋 田 市 教育委員会	遺跡整備に伴う学術 調査	江戸：庭園
12	滝沢城跡	由利本荘市前郷字滝沢館	7/2～8/24	942	由利本荘市 教育委員会	市営団地造成	江戸：城跡
13	船戸遺跡	大仙市北横岡字船戸	5/14～8/10	6,850	秋 田 県 教育委員会	一般国道13号神宮寺 バイパス建設事業	鎌倉・室町： 集落跡
14	成沢Ⅱ遺跡	大仙市大曲西根字下成沢	6/29～9/14	309	大 仙 市 教育委員会	学術調査	縄文：集落跡
15	史跡弘田柵跡 (第144次)	大仙市弘田字仲谷地	5/28～8/10	101	秋 田 県 教育委員会	学術調査	平安：城柵官衙跡
16	史跡弘田柵跡 (第145次)	美郷町本堂城回字百日本	8/20～11/6	3,368	秋 田 県 教育委員会	ほ場整備事業	平安：城柵官衙跡
17	県指定史跡本堂 城跡	美郷町本堂城回字御間	6/6～8/15	380	美 郷 町 教育委員会	学術調査	戦国・安土桃山： 城跡
18	陣館遺跡	横手市金沢中野字根小屋	10/1～12/21	240	横 手 市 教育委員会	学術調査	平安：城跡
19	神谷地遺跡	横手市雄物川町薄井字神谷地	5/28～10/12	3,100	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	縄文：集落跡
20	宮東遺跡	横手市清水町新田字宮東	5/28～7/31	1,960	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	奈良・平安： 集落跡
21	十文字遺跡	横手市清水町新田字十文字	7/2～7/31	300	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	奈良・平安： 集落跡
22	南田東遺跡	横手市雄物川町今宿字南田	5/11～5/22	640	横 手 市 教育委員会	工場用地造成	奈良・平安： 集落跡
23	蝦夷塚北遺跡	横手市雄物川町造山字蝦夷塚	10/31～11/14	150	秋 田 県 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 集落跡
24	菅生田輪遺跡	東成瀬村田子内字菅生田輪	9/10～10/2	44	東 成 瀬 村 教育委員会	学術調査	縄文：集落跡

※番号は、4頁の図に対応する。太子の遺跡名は次ページ以降に概要を掲載している遺跡。

(2) 発掘調査概要

ふじかぶ
藤株遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県北秋田市脇神字高森堂ノ上 83 - 3 ほか
調査期間	平成 24 年 6 月 4 日～ 10 月 30 日
調査面積	8,700㎡
遺跡の時代	縄文時代、平安時代、江戸時代
遺跡の性格	集落跡
事業名	一般国道 7 号鷹巣大館道路建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
調査担当	山田徳道、水品仁志、築瀬圭二、袴田道郎、山村 剛、菅野美香子

【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物	
縄文時代				縄文時代	
竪穴建物跡	14棟	掘立柱建物跡	4棟	土器	土製品（板状土偶・キノコ形土製品）
土坑	56基	フラスコ状土坑	14基	石器	（石鏃・石槍・石錘・石鏑・トランシェ 様石器・石錐・打製石斧・磨製石斧・ 石匙・石皿・磨石・凹石・鉋石）
配石土坑	1基	配石遺構	1基	石製品	（三脚石器）
土器埋設遺構	3基	焼土遺構	10基	古代以降	
石囲炉	1基	性格不明遺構	12基	須恵器（甕）	土師器（坏） 陶磁器（肥前産皿）
古代以降				木製品（椀・草履芯・埴材）	
溝跡	5条	掘立柱建物跡	6棟		
柱穴列	1条	柱穴様ビット	62基		

藤株遺跡は J R 鷹ノ巣駅から南東約 4 km の標高 29～38 m の段丘上に立地する。明治時代から広くその存在が知られ、昭和 55 年の国道 105 号線のバイパス工事に先立って調査では、縄文時代前期 7 棟、後期 5 棟、晩期 2 棟の竪穴建物跡のほか、多くの土坑墓による墓域が形成されたことが明らかになった。また、土坑墓のうち 1 基には、頭部のない遺体が火葬された状態のまま埋葬されていた。

今回の調査区は、前回調査区の南、国道を挟んだ東西 2 か所である。いずれの調査区も遺跡が立地する段丘面の縁辺部に当たる。調査区周辺は、段丘面を開析する複数の沢によって段丘縁辺部が狭い平坦地に分かれていたと思われ、竪穴建物跡はこれらの狭い平坦地や緩斜面に集中していた。国道西側では、後期後半と推測される竪穴建物跡 8 棟が斜面で重複し、周囲から同時期の土器埋設遺構や土坑墓と思われる土坑を検出した。国道東側の斜面でも同時期の竪穴建物跡が 3 棟検出され、小集落が一定期間継続して営まれていたことが明らかになった。

このほかの時期では、後期前半の竪穴建物跡 1 棟と上面に小石を環状に並べた配石土坑、晩期の石囲炉を伴った建物跡 1 棟を検出した。

今回の調査により、縄文時代後期では、段丘縁辺部で住居の建て替えを繰り返しながら小規模な集落が営まれ、晩期前半では少数の住居が点在し、住居とは別の地点に集団墓が形成されたことが確認できた。藤株遺跡は、縄文時代後期・晩期の居住域と墓域の関係や、集団墓が形成される過程などについて、豊富な資料が得られる遺跡として、ますますその重要性が高まった。

調査区遠景
(南東から)



縄文時代後期後葉の
土器埋設遺構
(南から)



国道西側調査区の
縄文時代後期後半
の竪穴建物跡群
(北から)



は け の し た に ハケノ下Ⅱ遺跡

【調査要項】

所 在 地	秋田県北秋田市脇神字ハケノ下 32 - 8 ほか
調 査 期 間	平成 24 年 6 月 4 日～ 10 月 9 日
調 査 面 積	4,200㎡
遺 跡 の 時 代	縄文時代（中期・後期）、平安時代
遺 跡 の 性 格	集落跡
事 業 名	一般国道 7 号鷹巣大館道路建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
調 査 担 当	柴田陽一郎、伊豆俊祐

【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物
縄文時代(中期・後期)	土器集中部	1 か所	土坑 1 基	縄文時代(中期・後期) 土器 石器
平安時代	竪穴建物跡	1 棟	溝跡 3 条	
	焼土遺構	3 基	畑跡 1 か所	平安時代 土師器 須恵器 鉄滓
	柱穴様ビット	83 基		
時期不明	土坑	1 基		

ハケノ下Ⅱ遺跡は J R 鷹ノ巣駅から南東へ約 3.7km、大野台台地の北東端に立地する。遺跡のすぐ南側には大館能代空港があり、東側には米代川支流の小猿部川が北西に向かって流れている。調査区の標高は 65.5～77.5m である。

調査の結果、縄文時代(中期・後期)の土器集中部、土坑、平安時代(10世紀前半)の竪穴建物跡、溝跡、焼土遺構、畑跡、柱穴様ビットを検出した。遺構・遺物の分布状況は調査区の東西で異なり、調査区の西半に縄文時代、東半に平安時代の遺構・遺物が集中する。調査区中央を縦断する 2 条の平安時代の溝跡は、長さ 30m 以上、幅 0.3m～0.4m であり、底面に木材を立て並べたような痕跡を確認した。溝跡のすぐ東側から竪穴建物跡が検出されていることから、溝跡は集落を区画した板塀の跡と考えられる。竪穴建物跡は一辺約 4m の正方形であり、四隅に柱穴をもち、北西部を除いて壁溝が巡る。カマドは南壁の西寄りにあり、支脚には逆位に重ねた土師器の甕と坏が用いられていた。また、調査区東半のほぼ全域から、畑の畝間溝とみられる複数の浅い溝跡を検出した。

以上から、本遺跡は縄文時代と平安時代の集落跡の一部と考えられる。縄文時代については検出された遺構が少なく不詳であるが、平安時代については竪穴建物跡と溝跡が検出され、集落跡であることが明らかとなった。調査区外の北側の尾根上には、平安時代の竪穴建物跡と推定される浅い窪地を数か所確認しており、集落の中心は調査区の北側に広がるものと推測される。

道跡遠景
(南西から)



溝跡
(北から)



竪穴建物跡
(北から)



ふなと 船戸遺跡

【調査要項】

所 在 地	秋田県大仙市北橋岡字船戸ほか
調 査 期 間	平成 24 年 5 月 14 日～8 月 10 日
調 査 面 積	6,850㎡
遺 跡 の 時 代	平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代
遺 跡 の 性 格	集落跡
事 業 名	一般国道 13 号神宮寺バイパス建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調 査 担 当	栗澤光男、加藤 竜、田村瑞保

【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物	
鎌倉～室町時代				平安時代	土師器 須恵器
竪穴建物跡	4 棟	土坑	45基	鎌倉～室町時代	
井戸跡	12基	火葬施設	3 基	陶磁器	木製品 石製品 銭貨
かまど状遺構	5 基	溝跡	9 条	江戸時代	陶磁器
焼土遺構	7 基	柱穴様ビット	382基		

船戸遺跡は、J R奥羽本線神宮寺駅の北西約 5 km に位置し、西方を北流する雄物川右岸に形成された標高 20 m 前後の河岸段丘上に立地している。今回の調査対象区は国道 13 号の東側と西側に分かれているため、便宜的に西側を A 区、東側を B 区として調査を行った。

調査の結果、A 区南部から中世の竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、焼土遺構、土坑、大溝、同区北部から火葬施設、B 区から中世の土坑、大溝、両区から溝跡、柱穴様ビットと、中世の陶磁器、木製品を主体として、平安時代の土師器、須恵器、江戸時代の陶磁器などが少量見つかった。

竪穴建物跡は、2.5 ～ 3 m 四方のほぼ正方形である。このうち 1 棟は、南側に出入口と考えられる張り出しがあった。井戸跡は円形に深く掘り込んでそのまま使われた素掘りのもので、大きさは直径 0.8 ～ 1.57 m、深さは 0.78 ～ 1.83 m である。中からは、斎串、陶器、木製品、石製品の破片がまとまって出土したものがあり、使われなくなった井戸を埋め戻す際の儀礼の可能性がある。かまど状遺構は、上部が耕作などで削平されており遺存状況は良くなかったが、焚き口と燃焼部が地上より下につくられ、先端にある煙道が地上に抜ける構造と考えられる。大きさは長さ 0.73 ～ 2.38 m、幅 0.55 ～ 1 m である。大溝は A 区から東西を直線的に横切り、国道 13 号を挟んで B 区では北方向に屈曲している。全長約 51.52 m、幅 1.68 ～ 3.28 m、深さ 0.42 ～ 0.67 m で、埋土中から 13 世紀から 14 世紀ごろの中世陶器が出土しており、この時期につくられた広範囲にわたる区画施設と考えられる。火葬施設は長さ 1.2 m 前後、幅 0.45 ～ 0.63 m のほぼ楕円形で、焼土、炭化物とともに焼骨片が少量見つかった。長軸方向の両側中央付近には通風口と考えられる張り出しがある。

以上から本遺跡は鎌倉時代から室町時代ごろ(13 世紀から 14 世紀)の集落跡である。

竪穴建物跡完掘状況
(南から)



井戸跡遺物出土状況
(北西から)



大溝完掘状況
(東から)



払田柵跡（第145次調査）

【調査要項】

所 在 地	秋田県仙北郡美郷町本堂城回字百目木
調 査 期 間	平成 24 年 8 月 20 日～ 11 月 6 日
調 査 面 積	3,368㎡
遺 跡 の 時 代	平安時代
遺 跡 の 性 格	城柵官衙遺跡
事 業 名	県営ほ場整備事業（本堂城回地区）
事業関係機関	秋田県仙北地域振興局農林部農村整備課、美郷町教育委員会
調 査 担 当	栗澤光男、加藤 竜、佐々木尚人、山田祐子、高橋和成、長澤隆広

【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物	
平安時代	材木堀（外柵）2か所	溝跡	42条	平安時代	土師器 須恵器 墨書土器
	土坑	11 基	柱穴様ビット	24基	瓦 木製品（鎌・斎串ほか）
	河川跡	30か所			鉄製品

払田柵跡は、律令国家が本州の北部を支配するために設置した行政・軍事を司る城柵の一つで、平安時代の9世紀初めに造られ、10世紀後半まで存続する。昭和6年に秋田県初の国指定史跡となり、昭和49年度から毎年、学術調査を実施している。第145次調査は、3か年で計画された史跡内の用排水路の改修に伴う現状変更調査の2年目に当たる。調査対象地区は外柵北部の沖積地にあり、標高は33.9～36.8mである。

調査対象となった水路は、7地点で外柵推定ラインと交差している。このうち外柵北門から西方に直線距離で約270mと約300mの2地点において材木堀を検出した。これらの検出地点は、昭和5年調査時の実測平面図に基づく外柵ラインとほぼ整合する位置にある。同様に、外柵北門の西約120m、東約190mの2地点では材木堀を設置した布掘りの可能性がある溝跡を検出しているが、その他の交差地点では何も検出されなかった。外柵北門から東西に延びる材木堀は、北門の西約125m（第138次調査N6区）と東約410m（第59次調査C区）の地点で検出されているが、その間の外柵ラインについては今回の調査でも確定には至らなかった。なお、改修する水路部分の調査と同時に外柵北門部分の調査も行ったが、昭和40年代の耕地整理により大きく削平された状況が確認され、従来の指摘通りすでに滅失した可能性が高い。外柵の材木堀検出地点から北（外側）に50mほど離れた地区では、柱穴と土坑がまとまって検出された。柱穴のうち1基では、柱痕跡中から土師器甕と須恵器甕の破片が重なった状態で出土しており、建て替えなどに伴う儀礼行為の結果と考えられる。柱穴出土遺物の年代は10世紀初めに属する可能性が高い。

今回調査対象となった外柵北門周辺の沖積地は、払田柵跡の中でも調査事例が少なく、遺構の分布状況が不明確な地区である。外柵の外側において、規模や形態は不明ながら、外柵消滅後に建物が存在したことを示す柱穴が確認されたのは一つの大きな成果である。

第145次調査区遠景
(政庁より撮影。南から)



外柵の材木堀検出状況
(東から)



柱穴内の遺物出土状況
(北から)



4 刊行物一覧

遺跡名	六日市遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	24年7月
書名	秋田県文化財調査報告書第479集 六日市遺跡 ——一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ——				
内容	遺跡の時代 平安時代				
	遺跡の性格 集落跡				
	検出遺構 平安時代：竪穴建物跡2棟、溝跡2条、土坑5基 中世：溝跡1条 時期不明：柱穴列3条、土坑3基				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器、鍛冶滓				

遺跡名	横枕遺跡	発掘調査年	22・23年度	発行年月	24年7月
書名	秋田県文化財調査報告書第480集 横枕遺跡 ——一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ——				
内容	遺跡の時代 平安時代、近世以降				
	遺跡の性格 工房跡				
	平安時代：竪穴建物跡10棟、掘立柱建物跡1棟、溝跡7条、土坑24基、 炉跡5基、焼土遺構7基、土器埋設遺構3基、性格不明遺構1基、 柱穴様ビット222基 近世以降：土坑1基、溝跡5条、柱穴列6条、性格不明遺構1基、 柱穴様ビット40基				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器、木製品、鉄製品、鉄滓 近世以降：陶磁器				

遺跡名	阿部館遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	24年7月
書名	秋田県文化財調査報告書第481集 阿部館遺跡 ——一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ——				
内容	遺跡の時代 平安時代、中世				
	遺跡の性格 集落跡				
	平安時代：掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑22基、鍛冶関連遺構1基、 大溝跡1条、柵跡3条、柱穴列2条 中世：井戸跡1基				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器 中世：須恵器系陶器、曲物				

遺跡名	北橋岡中野遺跡	発掘調査年	22・23年度	発行年月	24年10月
書名	秋田県文化財調査報告書第482集 北橋岡中野遺跡 ——一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ——				
内容	遺跡の時代 縄文時代、弥生時代、平安時代、中世、近世				
	遺跡の性格 縄文・弥生時代：散布地、平安時代・中世・近世：集落跡				
	検出遺構 平安時代：柱穴様ビット9基 中世：掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡3棟、かまど状遺構33基、 焼土遺構2基、井戸跡15基、土坑22基 近世：井戸跡5基、土坑2基、溝跡3条、柱穴様ビット5基 時期不明：溝跡15条、柱穴様ビット351基				
	出土遺物 縄文時代：土器、石器、弥生時代：土器、平安時代：土師器、須恵器 中世：陶器、近世：陶磁器				

遺跡名	ハケノ下遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	24年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第483集 ハケノ下遺跡 ——一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IV——				
内容	遺跡の時代 平安時代、鎌倉時代、安土桃山～江戸時代				
	遺跡の性格 平安時代：散布地、鎌倉時代・安土桃山～江戸時代：集落跡				
	検出遺構 鎌倉時代：掘立柱建物跡7棟、土坑1基、柱穴様ビット101基 安土桃山～江戸時代：水田跡7面				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器、木製品 鎌倉時代：陶磁器、銭貨、杭 安土桃山～江戸時代：陶磁器、木製品、石製品(砥石など)、金属製品(鉄釘など)				

遺跡名	県立聾学校遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	25年2月
書名	秋田県文化財調査報告書第484集 県立聾学校遺跡 ——旧県立聾学校解体工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書——				
内容	遺跡の時代 縄文時代、弥生時代				
	遺跡の性格 集落跡				
	検出遺構 土坑5基、焼土遺構1基、柱穴様ビット2基				
	出土遺物 縄文時代：土器、石器 弥生時代：土器、石器				

遺跡名	家ノ浦Ⅱ遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	25年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第485集 家ノ浦Ⅱ遺跡 ——一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ——				
内容	遺跡の時代 縄文時代、弥生時代、平安時代				
	遺跡の性格 縄文時代・弥生時代：散布地、平安時代：祭祀・生産遺跡				
	検出遺構 平安時代：掘立柱建物跡4棟、柵列・杭列跡6条、溝跡22条、敷石遺構1基、 集石遺構1基、土器埋設遺構1基、土坑65基、焼土遺構13基、 鍛冶炉1基、性格不明遺構1基、柱穴様ビット475基				
	出土遺物 縄文時代：石器 弥生時代：土器 平安時代：土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、土製品、石器、 木製品、鉄製品、鉄滓 近 世：紅皿				

書名	秋田県文化財調査報告書第486集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	24年度	発行年月	25年3月
内容	平成24年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第27号	発行年月	25年3月
内容	菅野美香子 「秋田県漆下遺跡出土縄文時代後期土器群の変遷案について——入組文とそれに類する文様変遷——」 高橋 務 「昭和前期高梨村における「拂田柵陸」の史蹟指定について」 山田祐子 「資料紹介：「麻生」と注記された遺物」 〈平成24年度企画展講演会＋座談会「小谷地遺跡の灌漑堰」講演録〉 村上義直 「小谷地遺跡の灌漑堰」 藤原弘明 「五所川原市十三盛遺跡の発掘調査について」 小山田宏一 「東アジア的視点でみる古代日本の低地灌漑」 黒崎 直 「埋没家屋と灌漑堰」 黒崎 直・村上義直・藤原弘明・小山田宏一 〈座談会〉		

書名	一千二百年前の八郎湖岸開拓－小谷地遺跡の灌漑堰－	発行年月日	平成24年6月9日
内容	平成24年度企画展「一千二百年前の八郎湖岸開拓－小谷地遺跡の灌漑堰－」のパンフレット。小谷地遺跡は、臨本埋没家屋として知られていた古墳時代～平安時代の遺跡。平成20年度の発掘調査で大量の板材を用いた堰遺構が発見され、埋没家屋は灌漑堰だったことが判明した。堰遺構、出土農具、祭祀遺物等の解説に加え、弥生時代から現代までの八郎潟沿岸地域の米作りの歩みも概説。		

書名	真崎勇助著『雲根録』全五巻翻刻	発行年月日	平成24年7月22日
内容	平成24年度第2回ふるさと考古学セミナー『黎明期の秋田考古学』の配布資料。 大館市立中央図書館が所蔵する真崎勇助著「雲根録」全五巻を富樫泰時氏が翻刻したデータに基づき、図を適宜挿入して編集。		

書名	平成24年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月日	平成25年2月24日
内容	平成24年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配布資料。 平成24年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、報告8遺跡、資料掲載のみ5遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

書名	秋田県埋蔵文化財基準資料（縄文時代土器集成Ⅰ－後期）	発行年月日	平成25年3月
内容	秋田県教育委員会が発掘調査した遺跡から、縄文時代後期の土器を集成し、基準資料となる253点を器種ごとに掲載した。解説文、実測図、カラー写真図版で構成。		

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報31（平成24年度）	発行年月	平成25年3月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの平成24年度の歩みを総括し、Ⅰ沿革、Ⅱ組織・施設、Ⅲ平成24年度の歩み、Ⅳ事業の概要、Ⅴ研修事業などを記載。事業の概要では、今年度発掘調査した4遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を詳しく説明。		

5 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは、主に遺跡の発掘調査業務を行っている。さらに、発掘調査の成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、活用・普及事業を積極的に推進している。本年度は、企画展、バスツアーを基軸に活用・普及事業を展開した。

(1) 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等が実施した発掘調査の成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から報告会を開催している。

今年度は平成25年2月24日(日)に県生涯学習センターを会場に開催した。当日は暴風雪の荒れた天気にもかかわらず、143名の参加者を得た。参加者は2種類の配布資料に目を通し、メモを取りながら、熱心に報告を聞いていた。展示会場でも写真や遺物を前にして質問をする姿が見られた。

また、同時開催した考古学体験教室では、子どもから大人までそれぞれ興味関心を持って取り組む姿が見られた。なお、当日の様子は、報道各社を通じて広く県民に伝えられた。

【報告内容】

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 平成24年度県内発掘調査の概要 | 利部 修 主任文化財専門員兼調査班長 |
| 2 名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園(秋田市) | 秋田市教育委員会 神田和彦氏 |
| 3 県指定史跡本堂城跡(美郷町) | 美郷町教育委員会 山形博康氏 |
| 4 船戸遺跡(大仙市) | 栗澤光男 調査班副主幹 |
| 5 ハケノ下Ⅱ遺跡(北秋田市) | 伊豆俊祐 調査班文化財主事 |
| 6 史跡弘田柵跡(大仙市・美郷町) | 加藤 竜 調査班文化財主任 |
| 7 神谷地遺跡(横手市) | 横手市教育委員会 信太正樹氏 |
| 8 藤株遺跡(北秋田市) | 山村 剛 中央調査班学芸主事 |
| 9 中山遺跡(五城目町) | 弘前大学人文学部文化財論講座
准教授 上條信彦氏 |
| 10 縄文のメッセージを世界へ
ー世界遺産登録推進についてー | 新海和広 県教育庁生涯学習課文化財保
護室文化財主任 |

【展示遺跡】上記報告8遺跡に加え、次の5遺跡を展示した。

菖蒲崎貝塚(由利本荘市) 中茂屋遺跡(大館市) 史跡秋田城跡(秋田市) 宮東遺跡(横手市)
滝沢城跡(由利本荘市)



報告会場の様子



展示・体験会場の様子

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査成果を現地で県民の方々に見ていただくため、発掘調査期間中に遺跡見学会を開催している。現地では、検出した遺構や遺物を公開し、調査担当者が解説を行っている。今年度は船戸遺跡(大仙市)、ハケノ下Ⅱ遺跡(北秋田市)、藤株遺跡(北秋田市)で見学会を実施し、延べ429名が遺跡を訪れた(下表)。ハケノ下Ⅱ遺跡では、見学会と別に遺跡を随時公開しており、64名の見学者があった。

このほか、小中学生、高校生による総合的学習の一環として、遺跡見学及び発掘体験を実施した。船戸遺跡では大仙市立平和中学校(4名)、県立大曲工業高等学校(2名)、藤株遺跡では、北秋田市立鷹巣南小学校(11名)、北秋田市立合川中学校(2名)、ハケノ下Ⅱ遺跡・藤株遺跡では北秋田市立鷹巣南中学校(9名)、県立秋田北鷹高等学校(13名)の参加があった。

遺 跡 名	日 時	公 開 内 容	参加者
船戸遺跡 (大仙市)	7月28日(土) 13:30～15:00	中世の集落跡(竪穴建物跡、井戸跡、溝跡、かまど状遺構、土坑、珠洲系陶器)ほか	152名
ハケノ下Ⅱ遺跡 (北秋田市)	9月16日(日) 13:30～15:00	縄文時代、平安時代の集落跡(竪穴建物跡、溝跡、土坑、土師器、縄文土器、石器)ほか	85名
藤株遺跡 (北秋田市)	9月29日(土) 13:30～15:00	縄文時代の集落跡(竪穴建物跡、掘立柱建物跡、フラスコ状土坑、縄文土器、石器)ほか	192名



船戸遺跡



ハケノ下Ⅱ遺跡



藤株遺跡

(3) 地域報告会

発掘現場の所在地域において、地域の人たちに発掘成果を速報する会を開催した。

遺跡名	船戸遺跡		
日 時	平成25年2月9日(土)	10:00～12:00	会 場 大仙市神清水コミュニティセンター
内 容	①船戸遺跡の調査報告(栗澤) ②周辺遺跡の調査報告(利部) ③遺物解説		

遺跡名	ハケノ下遺跡・ハケノ下Ⅱ遺跡		
日 時	平成25年3月17日(日)	13:00～14:00	会 場 北秋田市堂ヶ岱自治会館
内 容	①ハケノ下遺跡の調査報告(佐々木) ②ハケノ下Ⅱ遺跡の調査報告(伊豆) ③遺物解説		

(4) 学校(教育)サポート

① セカンドスクール

7) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合 計
利用件数	22	10	0	3	35
利用人数	648名	194名	0名	219名	1,061名

4) 活動の具体例

- 1) 縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
- 2) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- 3) 特別展示室や整理作業室の見学
- 4) 地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
- 5) 発掘現場の見学



東由利小学校 6年生

9) 平成24年度の成果



秋田北鷹高校 2年生

展示見学と土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験をセットにした学習が周知され、多数の利用があった。また、発掘調査を実施している地域で学校の遺跡見学を促進し、多くの児童生徒が見学に訪れた。このほか弘田棚跡の見学に際し、ボランティアガイドの会と連携するなど、地域の史跡や文化財に係わる学習について支援を行った。

② ボランティア・職場体験(インターンシップ)

平成18年度からセカンドスクールの利用の一環としてボランティア活動や職場体験(インターンシップ)の受け入れを始め、今年度は中学校3件12名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験(インターンシップ)は職業に関する理解を深めることを目的として行った。



比内中学校 2年生

③ 出前授業

今年度の出前授業は県内小学校6件、同中学校2件、同高校1件であった。小学校及び中学校での出前授業は、基本的に地元の発掘調査成果をもとにしたプレゼンテーションと地元の出土品の展示・説明を組み合わせ、縄文時代あるいは古代から中世にかけてなどの地域の歴史についての授業を実施した。児童・生徒にとっては、地元にも多数の遺跡があることがまず大きな驚きであったようである。また、出土品を実際に手に取って説明を聴くことができたことが、特に好評であった。

一方、高校では、中国甘肃省磨嘴子遺跡の合同発掘調査成果を東アジア古代史の中に位置づけた授業を行った。生徒たちは磨嘴子遺跡合同発掘調査の迫力ある現場写真を用いたプレゼンテーションに強い印象を受けたようであった。



仁賀保中学校の出前授業で出土品を見る生徒たち

学校名	授業日	対象	テーマ(単元題材名)	担当
由利本荘市立 子吉小学校	平成24年4月25日	6年生30名	遺跡から分かった 本荘・子吉の昔	小徳 晶・堀川昌英
大仙市立 高梨小学校	平成24年5月11日	6年生37名	縄文の村から古墳の国へ	小徳 晶・堀川昌英
大仙市立 平和中学校	平成24年6月6日	1年生37名	縄文・弥生時代	小林 克
にかほ市立 院内小学校	平成24年8月30日	6年生24名	遺跡から分かった にかほ市の昔	山田徳道・村上義直 高橋和成
聖霊女子短期 大学付属高校	平成24年10月3日	1年生180名	原始社会から古代文明へ	谷地 薫
にかほ市立 平沢小学校	平成24年11月13日	5年生61名 6年生64名	発信！私たち 出土品から見える昔	水品仁志・築瀬圭二 高橋和成
にかほ市立 仁賀保中学校	平成24年12月14日	1年生110名	遺跡から分かった にかほ市の昔	山田徳道・水品仁志 築瀬圭二・堀川昌英
北秋田市立 鷹巣中央小学校	平成24年12月19日	5年生28名 6年生24名	藤株遺跡から分かった 北秋田市の昔	袴田道郎・山村 剛 菅野美香子
にかほ市立 小出小学校	平成25年1月30日	5年生15名 6年生9名	遺跡から分かった にかほ市の昔	山田徳道・水品仁志 築瀬圭二

(5) 主催事業

① 企画展

今年度は、「一千二百年前の八郎湖岸開拓ー小谷地遺跡の灌漑堰ー」と題して平成24年6月9日～平成25年3月31日の期間に開催した。平成19年度から通算で9回の企画展を実施したことになる。これに伴う講演会+座談会「小谷地遺跡の灌漑堰」を9月23日に大仙市仙北ふれあい文化センターを会場として行い、77名の参加者を得た。



パンフ表紙



企画展見学者への展示解説

また、秋田県立大曲技術専門学校（出雲正行校長）の協力により、平成24年度実習で鉄骨製看板枠が製作され、12月18日、埋蔵文化財センター正面道路脇に企画展の看板とともに設置した。



看板設置

【平成24年度企画展 講演会+座談会「小谷地遺跡の灌漑堰」】

講師等	演題・内容
秋田県埋蔵文化財センター 文化財主査 村上義直 五所川原市教育委員会社会教育課 文化財保護係長 藤原弘明氏 大阪府立狭山池博物館 学芸員 小山田宏一氏	報告「小谷地遺跡の灌漑堰」 講演「五所川原市十三盛遺跡の発掘調査について」 講演「東アジア的視点でみる古代日本の低地灌漑」
司会：大阪府立弥生文化博物館 館長 黒崎 直氏 パネリスト：上記講師3名	座談会「小谷地遺跡の灌漑堰」 小谷地遺跡の灌漑堰の立地や構造等について、技術面、機能面等から検討し、東アジア的視点での位置付けを議論した。



小山田氏の講演



会場内の様子



座談会の様子

② ふるさと考古学セミナー

第1回 「日本海沿岸古代の道」

期 日：平成24年6月23日(土)

会 場：仁賀保勤労青少年ホーム

参加者：87名

講 師：荒木志伸氏(山形大学基盤教育院准教授)

高橋和成 (秋田県埋蔵文化財センター)

司 会：高橋 学氏(秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室)



講師の荒木氏(左)と高橋和成(右)

清水尻Ⅱ遺跡発掘調査での古代道路跡発見を受け、古代の道路について考える目的のセミナーを開催した。「清水尻Ⅱ遺跡発掘調査報告」(高橋)で、発見された道路跡等を紹介し、「出羽国と京を結ぶ官道—古代道路のはたした役割—」(荒木)で、古代の官道に関する調査事例や文献からの研究の現状について概説した。座談では、清水尻Ⅱ遺跡の道路跡やそれに付随する施設の役割について、意見交換を行った。

第2回 「黎明期の秋田考古学」

期 日：平成24年7月22日(日)

会 場：秋田県立図書館

参加者：50名

講 師：富樫泰時氏(秋田県文化財保護審議会会長)

山村 剛 (秋田県埋蔵文化財センター)

小林 克 (秋田県埋蔵文化財センター)



展示を解説する講師の富樫氏(左)

県立図書館2階特別展示室で開催中の出張展示「黎明期の秋田考古学」にあわせ、秋田考古学の先覚の業績に焦点を当て、秋田考古学の歩みを振り返ることを目的に、県立図書館との共催により開催した。「真崎勇助著『石器送付簿但土器共』」などからみる秋田考古学黎明期の動向(山村)では、真崎勇助の事績と考古学関係の交友関係を紹介した。「黎明期の秋田考古学」(富樫)では、江戸後期から昭和30年代に至る秋田考古学の発展経過を概説し、その過程で特に大きな意義があった発掘調査や人物の業績について詳述した。講演後、出張展示会場に移動し、富樫氏と小林氏が展示解説を行った。

第3回 「土偶は語る」

期 日：平成24年10月13日(土)

会 場：北秋田市交流センター

参加者：37名

講 師：金子昭彦氏(公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵

文化財センター)

対 談：小林 克 (秋田県埋蔵文化財センター)



講師の金子氏

「土偶は語る」をテーマとし、講演と対談を行った。「縄文土偶の特徴から用途を探る」(金子)では、土偶とは何か、縄文時代の特徴、縄文土偶の歴史、東北地方及び秋田県の土偶、変わり種の土偶等について概説し、縄文土偶の特徴の原因や用途について、金子氏の考えを披露した。後半の対談では、参加者からの質問や意見も多く、土偶に対する興味関心の高さがうかがえた。

③ 古代発見！バスツアー

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は「八郎潟周辺の遺跡探訪コース」と「県北の縄文遺跡探訪コース」を設定し、秋田市発着でそれぞれ3回ずつ実施した。

新聞・チラシ・ホームページ等で広報し、各コース第3希望日まで応募できるようにした結果、各回の人数を調整してすべての参加希望に応えることができた。

回	期日・参加人数	内 容 ・ コ ー ス
第1回	6月19日(火) 【参加者27名】	八郎潟周辺の遺跡を巡見。ガイドは埋蔵文化財センター職員が行い、浦城跡では、「浦城の歴史を伝える会」の皆さんに案内をしていただき、男鹿市歴史資料収蔵庫では、男鹿市教委職員の方に解説をいただいた。
第2回	6月21日(木) 【参加者28名】	・県生涯学習センター→浦城跡(八郎潟町)→石崎遺跡・中谷地遺跡・文化の館(五城目町)→男鹿市歴史資料収蔵庫→小谷地遺跡(男鹿市)→県生涯学習センター
第3回	6月26日(火) 【参加者28名】	※浦城跡歴史学習館(本丸跡)で昼食・休憩。 ※石崎遺跡・中谷地遺跡は車中解説。
第4回	10月2日(火) 【参加者30名】	県北部の縄文遺跡を巡見。ガイドは埋蔵文化財センター職員が行い、大湯環状列石ではボランティアガイドの方々に解説をしていただいた。
第5回	10月4日(木) 【参加者31名】	・県生涯学習センター→藤株遺跡発掘現場(北秋田市)→国特別史跡大湯環状列石(鹿角市)→国史跡伊勢堂岱遺跡(北秋田市)→県生涯学習センター
第6回	10月11日(木) 【参加者27名】	※藤株遺跡では発掘調査の様子を見学。当センター職員が解説。 ※大湯環状列石ストーンサークル館で昼食・休憩。 ※伊勢堂岱遺跡は車中解説。



第1回 小谷地遺跡の見学



第2回 文化の館の見学

第3回、4回では県立盲学校の成人生徒の皆さんと先生方7名に参加いただいた。第3回の浦城跡の見学は山頂の本丸跡まで山登りであったが、「浦城の歴史を伝える会」の方々にサポートしていただき、楽しく往復することができた。また、第4回の藤株遺跡発掘現場や大湯環状列石など、普段足を運ぶことのない場所を訪れ、埋蔵文化財について知っていただいたことは大きな成果であった。



第3回 浦城跡の見学



第3回 県立盲学校の皆さん



第4回 国特別史跡大湯環状列石の見学



第4回 県立盲学校の皆さん



第5回 藤株遺跡の見学



第6回 国特別史跡大湯環状列石の見学

④ 出張展示

例年、埋蔵文化財センターの所蔵資料を館外に持ち出して展示を行い、多くの方々の観覧に供し埋蔵文化財への理解を深めてもらおうとの企画であるが、今年度は少し趣向を変えた内容で開催した。現在の発掘調査や考古学研究の成果は報告書などに記録され出版されて、将来にわたり伝えられるが、かつて、地域の考古学のはじまりにおいては収集家などの私的な記録が伝えられる唯一の方法であった。今年度の出張



県立図書館の出張展示会場

展示は、こうした一般には目に触れにくい、それら先学の私的な記録に焦点をあて、『黎明期の秋田考古学』とタイトルし、関係した文書類を所蔵する県市町村機関、個人の協力を得て開催した。とりあげたのは明治期の真崎勇助、東山多三郎、養虫山人、そしてそれらから遅れるが、昭和前期を中心に活躍した武藤鉄城の業績である。文書類が中心の展示であり、会場も県立図書館展示室とした。

考古学の記録では観察した結果を視覚的に表現することが重要な要素で、先学の資料にも図が多く残されている。大正期にはすでに芽生えていた県内学会誌にも、第二次大戦後の活版印刷技術の拡大で精細な図や写真を載せられるようになり、調査研究成果は広く普及するようになった。その印刷に用いられた亜鉛凸版や写真版も印刷された専門誌とともに展示した。また、凸版製作の技術で作られた県内唯一の国宝『線刻千手観音等鏡像』の印判も、武藤鉄城の業績との関わりで展示した。7月3日～8月17日までの期間内の観覧者は4,906名であった。

(6) 共催・機関連携等による普及事業

① 農業科学館まつり

7月29日(日)に開催された「農業科学館まつり」で、協力団体の一つとして「縄文時代の遊びと生活体験」のコーナーを設け、訪れた家族に石器づくりや弓矢体験を楽しんでもらった。それぞれ10～15分程度の体験で、猛暑にもかかわらず、延べ93人の参加者で賑わった。ほとんどの参加者が初めての体験のようで、苦勞しながらもだんだんコツをつかんで上手になり、「おもしろかった。」という感想をたくさんいただいた。



石器づくり



弓矢体験

② 土器に生ける秋の草花展

農業科学館との共催で、10月13日から10月28日まで開催した。今年度は大館市池内遺跡出土の縄文土器10点と関連するパネル資料を展示した。秋の草花は東大曲小学校生け花クラブの児童にアレンジしてもらい、素材を生かしたダイナミックな作品ができた。また、縄文土器の施文体験ができるコーナーを設け、見学者に文様の付け方を実見してもらった。



農業科学館展示会場

③ あきた県庁出前講座

月 日	要請団体	内 容	番号	講 師	会 場
6月20日(水)	湯沢生涯学習センター	出土品から学ぶ秋田の歴史 「中世湯沢地域の発掘事例」 【参加者 約90名】	173	所長 高橋 務	湯沢勤労 青少年ホーム
8月7日(火)	秋田市中央 公民館	出土品から学ぶ秋田の歴史 【参加者 約90名】	173	資料管理活用班 学芸主事 小徳 晶	サンバル秋田
11月7日(水)	西木町文化 財保護協会	あきた県庁出前講座～リアル タイム発掘調査最前線 「高野遺跡の発掘調査成果」 【参加者 12名】	174	中央調査班 文化財主任 菅野美香子	ふれあいプラザ クリオン

今年度は3件の要請があった。1件目は、湯沢生涯学習センターからの要請で、湯沢市民大学一般教養講座の1つとして行われた。2件目は、秋田市中央公民館の主催事業である秋田おもと高齢者大学の講座として行われた。3件目は、昨年度発掘調査を行い報告書を刊行した高野遺跡が所在する仙北市西木町の文化財保護協会からの要請である。参加者は質問をしたり、説明に熱心に耳を傾けるなど興味関心が高かった。

④ 発掘！考古ゼミ

県生涯学習センターとの機関連携事業である。県教育機関が連携し、相互に特徴を活かすことにより活性化を図ることをめざした。今年度は県生涯学習センターを会場に3回開催し、秋田市を中心に受講者を得ることができた。

回	日 時	講演テーマ	講 師
第1回	12月7日(金) 10:00～11:30	高野遺跡の発掘調査成果 【参加者 22名】	中央調査班文化財主任 菅野美香子
第2回	12月14日(金) 10:00～11:30	清水尻Ⅱ遺跡の発掘調査成果 【参加者 17名】	調査班文化財主事 高橋和成
第3回	12月21日(金) 10:00～11:30	家ノ浦Ⅱ遺跡の発掘調査成果 【参加者 24名】	中央調査班文化財主査 村上義直

⑤ 兵庫県立考古博物館「第5回考古博古代体験・秋まつり」

「考古博古代体験・秋まつり」は、発掘調査や考古学の成果からわかってきた古代の人々の知恵やワザを実際に体験するイベントで、今年度で5回を数える。また県内外から古代体験メニューの取り組みを行っている体験学習施設や博物館等を集め、さまざまな古代体験を実演することで、各団体の活動を全国に紹介していく試みでもある。主催及び会場は兵庫県立考古博物館(兵庫県加古郡播磨町)で、主な日程・内容は次のとおりであった。

期 間：平成24年11月2日(金)～11月3日(土)

会 場：兵庫県立考古博物館 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

参加者：学芸主事 小徳 晶、学芸主事 堀川昌英

日程・内容等：

○11月2日(金) 古代体験事例報告会・シンポジウム

午後から「事例報告会」が行われた。古代体験プログラムや埋蔵文化財活用事業の全国的情報交換の場となっている。事例報告は、①御所野縄文博物館(岩手県)、②上野原縄文の森(鹿児島県)、③さらしなの里歴史資料館(長野県)、④熊本県立装飾古墳館(熊本県)、⑤兵庫県立考古博物館(兵庫県)の各施設から、普段行っている体験活動のメニューや出張体験(出前体験)について紹介があった。また、兵庫県立考古博物館からは、「古代体験・秋まつり」の台湾版にあたる「台湾新北市考古生活フェスティバル」への参加報告も行われ、中国や韓国など他国でも日本と同じような古代体験が行われていることが紹介された。後半のシンポジウムでは、「古代体験プログラムの現状とその課題」をテーマに意見交換がなされ、プログラム開発や運営上の課題等について情報交換を行った。

○11月3日(土) 考古博古代体験・秋まつり

大中遺跡まつりと同時開催で行われ、イベント全体で多数の参加者があった。会場には37の体験ブースが設けられ、当センターは「石器づくり体験(頁岩、黒曜石で石器をつくろう)」を実施した。その際、補助として、「ひょうご考古楽倶楽部」からボランティアスタッフ1名の協力を得た。当センターのコーナーでは子どもを中心に106名が参加し、硬い石に悪戦苦闘しながらも15～30分程度の体験を楽しんだ。1人で複数つくったり、また、なかなか見ることのできない黒曜石や頁岩に触れ、観察する人も多かった。さわやかな秋晴れの下、他の体験活動とともに、終日賑わいを見せ、大盛況のうちに終了した。



会場の様子



石器づくり体験の様子

(7) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年 度	22年度	23年度	24年度
所蔵資料 貸 出 数	26件	27件	25件
キ ッ ト 貸 出 数	5 件	4 件	3 件
ビ デ オ 貸 出 数	0 件	0 件	0 件
火 起 こ し 貸 出 数	2 件	2 件	1 件

※所蔵資料貸し出し内訳

資料種別	使用目的 (複数利用含む)		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	12件	6 件	1 件
フィルム写真データ	0 件	0 件	0 件
デジタル写真データ	4 件	9 件	0 件
そ の 他	1 件	0 件	0 件

② センターの開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者には、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15～30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料等も自由に持ち帰れるようにしている。

なお、平成23年度から、平日には中央調査班展示室も開館している。

	開館時間	見学可能箇所
平日	8:30～17:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月29日～31日)

※は職員の案内によって可能

③ 図書整理・図書一般公開

昨年度から継続して図書の整理、配架を行い、図書の利用環境を整備した。

また、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所が行っている学術機関リポジトリ構築連携支援事業の委託事業の中で、鳥根大学が代表機関として受託した全国遺跡資料リポジトリ事業で構築されたリポジトリシステム上において、秋田県教育委員会刊行の遺跡発掘調査報告書の電子データを公開することを目指し、その窓口である秋田大学に発掘調査報告書のPDFデータを提供した。これは、平成25年1月から順次公開されている。さらに、これまでの企画展パンフレット8冊と「みて！考えて！秋田のむかし」(平成19年度作成)の計9冊については、県立図書館デジタルアーカイブに掲載して公開するために必要なデータ等の整備を行った。

なお、平成23年度に児玉準氏から考古学専門書等134冊、平成24年度には池田憲和氏から近代化遺産報告書等402冊の寄贈を受け、登録・配架した。

(8) 研究論文・講演等

(平成24年3月)

〈論文〉 小林 克 「クマと土偶とシャマンと」『東北芸術工科大学東北文化研究センター ORC総括報告書』 東北芸術工科大学東北文化研究センター

(平成24年6月)

〈発表〉 利部 修 「本荘由利地域の古代生産遺跡」『由理柵・駅家研究会第14回例会』由理柵・駅家研究会

(平成24年10月)

〈講演〉 小林 克 「埋めない墓—環状列石と墓地—」『企画展関連事業講演会』岩手県一戸町御所野縄文博物館

(平成24年12月)

〈講演〉 小林 克 「円筒土器文化の記念物」『第7回日本考古学協会公開講座』三内丸山遺跡時遊館

(平成25年1月)

〈講演〉 村上義直 「発掘調査から見えてくる『にかほの古代』～家ノ浦Ⅱ遺跡等の発掘調査から～」『にかほ市郷土史市民講座』金浦勤労青少年ホーム

(平成25年3月)

〈論文〉 菅野美香子 「上桧木内の高野遺跡について」『風土にしき』第15号 西木町文化財保護協会 6 運営協議会

第1回 平成24年6月25日(月)

委 員：岩見誠夫(委員長)、藤原保子(副委員長)、高橋茂則、栗林守、須田綾子、佐藤厚子、小林千歳、池田光英

事務局：高橋所長、高橋副所長、松橋総務班長(進行)、谷地主任学芸主事(記録)

冒頭に所長から地域に貢献できる機関を目指すため、委員各位のご意見を聞きたいとのあいさつがあった。続いて岩見委員長から弘田柵跡の外柵が強風で倒壊したことについての話があり、その後、報告および協議に移った。報告は高橋副所長が①平成24年度の発掘調査、②平成24年度の活用事業計画の順で行い、途中に企画展『一千二百年前の八郎湖岸開拓—小谷地遺跡の灌漑堰—』の見学を挟んで、報告に対しての質疑、あるいは委員からの提言を受ける形で進められた。委員からの質疑では4月～5月にセカンドスクールの利用が増えていることの分析、また、池田氏庭園公開に関わっての入館者数の推移についての質問があった。前者については小中学校の児童生徒にも発掘現場の説明会参加を呼びかけるなど宣伝効果がでたのではないかと考えていること、また、関連し報告会での体験コーナーが大人の関心をも引くことがわかり、セカンドスクールのメニュー拡充が埋蔵文化財センターの周知化に有効であることの確認もできたこと、今後は中央調査班のある秋田市での周知を重点的に行っていくことを考えていることが回答された。後者については池田氏庭園の公開に伴う自転車貸し出しが入館者数の増加にも働いていること、が回答された。委員からの提言では、仙北地域振興局でのドライブマップ作成や仙北市での旅行商品開発に弘田柵跡も組み入れたいとのことや、移動の難しい学校のため出前授業の機会を増やしてほしいとのこと、学校のみでなく公民館等でも開催できる出前を

含み、体験メニューの具体を示してほしい希望が述べられた。これら提言について所長から、授業案としての検討、社会教育・公民館活動との連携を公共的な文化財保護の観点で進める旨が述べられた。

第2回 平成25年2月18日(月)

委員：岩見誠夫(委員長)、藤原保子(副委員長)、高橋茂則、布谷英司(栗林守代理)、
須田綾子(欠席)、佐藤厚子、小林千歳、池田光英

事務局：高橋所長、高橋副所長、松橋総務班長(進行)、利部調査班長、榮中央調査班長、

小林資料管理活用班長、谷地主任学芸主事(記録)

会に先だち、所長から、平成24年度の事業も報告会を除いてすべて終了したが、委員からは平成25年度に向けての積極的な提言をお願いしたい旨のあいさつがあった。これをうけて岩見委員長からは、発掘調査件数が少なくなっていることは寂しいことであるが、入館者数が前年度に比べ3,000人も増えているのは関心の高さを物語っている。この関心の高さに応えられるよう、具体的な議論、提言をしたい旨、話がされた。

委員会ではまず事務局より、平成24年度の発掘調査、活用事業の順で報告がなされ、次いで協議へと移った。まず、議題とされたのが事業広報の方法である。現在、埋蔵文化財センターでは、遺跡の見学会、講演会、セミナー、バスツアーなどの広報に、新聞、テレビなどのマスコミ、ホームページ、ダイレクトメールなどを使っているが、さらなる広報にはどのような手段が考えられるか、また、既存の方法でもどのような改善が想定されるかが問題提起された。これに対しては、現行のホームページが小学生、中学生向けに構成された内容となっていないことが、改善すべき点として指摘された。一般向けには、展示解説を積極的に行うことが高い評価につながるとの意見が出された。

また、新聞などの既存のメディアを通しての広報力が次第に落ちていくなか、現行の特定個人を対象としての広報、ダイレクトメールをさらに発展させ、インターネット環境でのSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)などの活用について意見が求められたが、SNSについては、あくまで個人対個人の情報伝達手段であり、公共機関が直接に情報発信する媒体ではないという認識が示された。

ほかに、事業の開催場所として、大型商業施設での展開が広報的にも効果的ではないかとの提言もなされ、特に子ども向けには親子で参加できるような内容で構成されたイベントであれば入りやすい、あるいは夏休みのイベントとして商業施設が活用されているなどの意見が出された。

以上のような提言、意見に対しては、事務局からは今後とも一般及び学校向けに情報を繰り返し出していくこと、また、出前授業も調査班、資料管理活用班一体で積極的に取り組んでいくことが述べられた。

最後に、事務局から、今年度が委員の改選時期にあたり、今後は新任あるいは再委嘱となることが謝辞とともに述べられた。

V 平成24年度研修事業

1 研修受け入れ

県立高等学校10年経験者選択研修

実施日：平成24年8月6日～8月8日 研修者：石川和良(秋田県立新屋高等学校教諭)

養護学校実習

実施日：平成24年6月18日～6月29日 研修者：高根大樹(秋田県立栗田養護学校)

実施日：平成24年7月23日～7月27日 研修者：熊谷宣宏(秋田県立大曲養護学校)

実施日：平成24年9月24日～10月5日 研修者：高根大樹(秋田県立栗田養護学校)

実施日：平成25年2月4日～2月15日 研修者：高根大樹(秋田県立栗田養護学校)

職場体験活動

実施日：平成24年5月23日 研修者：浅石光太郎 渡辺 優 小林大地 中西一雅 荒谷大輔
安藤佳音(大館市立比内中学校)

実施日：平成24年8月1・2日 研修者：大山 隼 竹村圭太 原宏太郎(大仙市立仙北中学校)

2 職員研修

第1回職員技術研修会【藤株遺跡発掘調査現場】

テーマ：デジタルカメラ撮影とデータの保存 講師：中村一郎氏(奈良文化財研究所主任)

実施日：平成24年8月24日 研修者：センター職員全員

参加者：高橋 学(文化財保護室)、細田昌史・榎本剛治(北秋田市教委)、播磨芳紀(能代市教委)、
小野隆志(秋田市教委秋田城跡調査事務所)、亀井崇晃(美郷町教委)

第2回職員技術研修会【中央調査班】

テーマ：資料のデジタル化とその保存及び活用 講師：山崎博樹氏(県立図書館副館長)

実施日：平成25年1月24日 研修者：センター職員全員

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第25回研修会【北上市】

テーマ：山林寺院調査の現状と課題 講師：上原真人氏(京都大学大学院教授)ほか

実施日：平成24年11月8日 研修者：センター職員8名

奈良文化財研究所文化財担当者専門研修(土器・陶磁器調査課程)

実施日：平成24年11月12日～11月16日 研修者：村上義直(中央調査班)

新任者研修【本所】

実施日：平成24年4月4日～4月12日 研修者：伊豆俊祐(調査班)

研修報告会【中央調査班】

実施日：平成24年12月5日 研修者：センター職員全員

防災・交通安全・健康講話【本所・中央調査班】

実施日：平成24年4月26日、11月20日(防災) 研修者：センター職員全員

実施日：平成24年5月9・24日、11月20・26日(交通) 研修者：センター職員全員

実施日：平成25年1月24日(健康) 研修者：センター職員全員

3 一眼レフデジタルカメラ導入に関する研修

(1) 現状と課題

近年、世界的にデジタル写真が普及し、フィルム現像や写真フィルム生産の継続が危ぶまれており、文化財写真分野でもデジタル化への対応が喫緊の課題となっている。秋田県埋蔵文化財センターの発掘調査写真は、フィルム装着一眼レフカメラを使用し、35mm判のモノクロームとスライド写真を主体に、必要に応じてブローニ判でも撮影しているが、今後はデジタル化が必要となると予想される。

今後のデジタル化への対応については、平成23年11月、職員が奈良文化財研究所や奈良県立橿原考古学研究所等を訪問して情報収集を行った。そして、撮像素子がフルサイズ以上で、2,000万画素以上の一眼レフデジタルカメラであれば、6×7フィルムカメラ写真に匹敵する画像を得られること、デジタルデータの保存について、今後もソフトやOSの頻繁な変化が予想されること、HD、CD、DVD等は構造的特質が数十年以上の長期保存には適さず3～4年での保存し直しが必要であること、撮影がデジタルだけの場合は、複数媒体の分散保管体制が必要であること等の知見を得た。

今年度は、デジタル化を具体的に進めるに当たり多くの情報が必要なることから、年度当初より2名の担当を設け、発掘現場写真撮影を35mmフルサイズ一眼レフデジタルカメラで行う適否を検討した。

その結果、一眼レフデジタルカメラ導入により、現状の35mm判フィルムより高精細な6×7フィルム相当の高画質が恒常的に得られ、恒久的保存画像として適していること、フィルム購入費、現像費が削減できること等の利点と、撮影からデータ保存時までのデータバックアップ体制の整備、恒久的保存のための媒体選択、適切な運用ルール作り等、実施までに解決が必要な課題が明確になった。

そこで、平成25年度からの発掘現場写真撮影へのフルサイズデジタル一眼レフカメラ導入を想定し、課題解決の具体策、予算措置等を検討した。そして、導入機種は、現在保有するレンズとの互換性、撮像素子等の基本性能、重量、防塵・防滴機能、価格等を総合的に判断し、標準ズームレンズ(24-85mm)を装備したニコンD600を選定した。撮影データは、1台でRAW(未加工データ)とJpeg(非可逆圧縮データ)の分割記録となる。発掘調査時には撮影したコマを随時パソコンに収納しておき、さらに別に外付けHDにも仮保存することとした。恒久保存の方法については、クラウドヘデータを預け置くことも含め、さらに検討を重ねることとした。

(2) 関連研修

全職員がデジタルカメラ導入に関する基礎知識を研修するために、デジタル写真関連のテーマで職員技術研修会を2回開催した。第1回は市町村の埋蔵文化財担当者も参加した。

第1回は8月24日、奈良文化財研究所企画調整部写真室主任中村一郎氏を講師に招き、午前に北秋田市沢口公民館で「デジタル時代の文化財写真」と題した講演、午後は藤枝遺跡発掘現場で一眼レフデジタルカメラを操作しながら撮影や画像補正方法等を実習した。講演は、フィルムカメラ撮影の現状、デジタル化の問題点、写真画像の基礎的知識等の内容であった。また、文化財写真保存ガイドライン検討グループが作成した『文化財写真の保存に関するガイドライン』を参加者に配布した。

第2回は1月24日、県立図書館副館長山崎博樹氏を講師に招き、「デジタルアーカイブの現状と課題」と題した講演を聴講した。講演では、デジタル画像の基礎、デジタルデータ保存の課題、デジタルアーカイブの目的等について、特に技術的観点から詳しい解説があり、デジタル画像を取り扱うに当たって知っておくべき基礎知識を得ることができた。

Ⅵ 職員名簿

職 名	氏 名
所 長	高 橋 務
副 所 長	高 橋 忠 彦

総務班

副主幹（兼）班長	松 橋 浩 治
主査	柴 田 真 希
主査	小 松 正 典
非常勤職員	櫻 田 隆

調 査 班

主任文化財専門員（兼）班長	利 部 修
副主幹	柴 田 陽一郎
副主幹	栗 澤 光 男
（兼）学芸主事	五十嵐 一 治
学芸主事	佐々木 尚 人
文化財主任	加 藤 竜
文化財主事	高 橋 和 成
文化財主事	伊 豆 俊 祐
臨時的任用職員（調査・研究員）	長 澤 隆 広
臨時的任用職員（調査・研究員）	田 村 瑞 保

中央調査班

主任文化財専門員（兼）班長	榮 一 郎
主査	菊 地 尚 久
学芸主事	山 田 徳 道
学芸主事	水 品 仁 志
学芸主事	築 瀬 圭 二
学芸主事	袴 田 道 郎
学芸主事	山 村 剛
文化財主査	村 上 義 直
文化財主任	菅 野 美香子
非常勤職員	泉 明

資料管理活用班

主任文化財専門員（兼）班長	小 林 克
主任学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	小 徳 晶
学芸主事	堀 川 昌 英
文化財主事	山 田 祐 子

秋田県埋蔵文化財センター年報31

(平成24年度)

発 行 平成25年3月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20番地
電 話 (0187) 69-3331
FAX (0187) 69-3330
[URL] [http://www.pref.akita.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)
印 刷 株式会社三森印刷

